

会 議 録

1 会議名

平成29年度第2回上越市子ども・子育て会議

2 議題（全て公開）

（1）「休日や放課後の子どもの居場所」について（グループワーク）

①グループワークの趣旨・方法説明（会長）

②行政が提供している主な居場所について

③グループワーク

④グループワーク発表

（2）その他

3 開催日時

平成29年10月19日（木）午前10時から

4 開催場所

市民交流施設高田公園オーレンプラザ会議室・研修室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：高島会長、吉澤副会長、風間（裕）委員、石田（郁）委員、
岡田（龍）委員、品川委員、椿委員、柳澤委員、吉田委員、後藤委員、
阿部委員、岩井委員、柳委員
- ・ 事務局：こども課 内藤課長、牛木副課長、西山係長、滝澤主任
- ・ 関係課：学校教育課 手塚副課長、徳永係長
社会教育課 小林副課長、北澤係長

8 議事内容

（1） - ①「休日や放課後の子どもの居場所」について（グループワーク趣旨・方法説明

高島会長：今回の協議テーマは「子どもの居場所」とした。児童クラブの料金の話も

あったが、結論ありきになってしまい、委員対行政となりやすいため、このテーマとしたことを了解いただきたい。

(1) - ②「休日や放課後の子どもの居場所」について（行政が提供している主な居場所について）

事前配布資料に基づき、関係課説明（こども課、学校教育課、社会教育課）

(1) - ③「休日や放課後の子どもの居場所」について（グループワーク）

(1) - ④「休日や放課後の子どもの居場所」について（グループワーク結果発表）

高島会長：各グループ代表から、話し合いのプロセスも含めて、説明をお願いします。

後藤委員：Aグループでは、前半は「放課後児童クラブ」、後半は「その他」のことに
ついて話し合いました。

まずは、「放課後児童クラブ」についてです。親として非常に安心して預けることができ、「6年間の小学校生活を無事に過ごせた」、「イベントを通じて成長していることに感謝している」という意見がありました。

課題として、「全てのクラブの利用時間を19時まで延長」や「日曜日、祝日も仕事の際には開設していただくとありがたい」という声がありました。一方で、学校側サイドの意見として、「長時間いると子どもが寂しそうだ」、学校の施設管理面でも学校内に児童クラブが設置されていると、「長期休暇やお盆、年末年始の際、心配な部分もある」という声もありました。

また、クラブによっては、部屋の中で長時間過ごさなければいけないところもあり、「施設によって差が出ないようにしていただきたい」という意見や「指導員のスキルの向上と情報交換が必要だろう」という話がありました。

学校側としては、守秘義務について今年の夏休みに研修を行ったが、今後も引き続き研修に取り組み、深めていくことでよりより施設環境になっていくのではないかという意見がありました。

全体として、共通していたのはありがたいという意見ですが、上教大やこどもの家、公民館でそれぞれ単独でバラバラに事業が行われていると参加させづらいので、1日ずっとある場所で連携して事業がされるとありがたいと

いう意見が出ました。ただ、親としては、送迎が難しいという話もありました。

小学生とはいえ、子ども達は放課後もかなり忙しくなっている。長期休業時も同様に忙しくなっているため、ピンポイントで参加させたいという事業があると、親としてはどんどん参加させたいという気持ちを持つということがわかりました。

岡田(龍)委員：Bグループは、「休日」、「放課後」と区分して、まずは疑問点、良いこと、悪いことを全て書き出してみるところから始めました。

児童クラブの内容が、あまりよくわからないという意見がありました。児童クラブは閉鎖的で、ほかの人が見に行けないという意見が出ました。例えば、地域の大人が、裁縫の体験型の内容をやるなど、子どもが自らあれがしたい、これがしたいと思うことが大事なのではないかと話し合いました。

大人が子どもを、高学年が低学年の面倒を見てあげられるような学校と違って、児童クラブでは子どもが言うことをきかないという話がありました。放課後こそ、子ども達同士、地域の中のコミュニケーションの場にしていくことが大事なのではないかという意見がありました。また、地域によって、クラブに温度差があるという意見もありました。

小学校低学年、中学年は、人格形成の大事な時期であり、地域の大人がきっかけを作り、面倒を見るというのが大切なのではないかという話が出ました。興味が無い、面倒臭いけれども、一生懸命やってみるということが必要なのではないかと、そうすることで地域もよくなっていくのではないかと、簡単ではないですが、これからこのようなことがやっていけたらいいのではないかと話し合いました。

高島会長：2つのグループの発表が終わりました。これからの時間は事務局も交え、意見交換を行いたいと思います。

高島会長：まず放課後児童クラブに子ども達自身がどんな意識で行っているのかとい

うことが気になりました。親が家にいてあげられないから「ごめんね」という気持ちで、私の時代は放課後児童クラブもなく、親と同居だったので苦労しないで過ごしてきましたが、みなさんはいかがですか。

柳澤委員：私の場合は、保育園から小学校にあがって、そのまま児童クラブに行かせています。子どもは、保育園の頃から私は仕事でいないということはわかっていると思います。

「お仕事、頑張ってくるからね。クラブで遊んできてね」、「一緒に頑張ろうね」、「応援してね」って言っています。

「お仕事なので、クラブでいい、ごめんね」って言ったことがありました。その時に、「なんで謝るの」と子どもに言われた時もありました。Bグループで、高学年が低学年の面倒を見るという意見がありましたが、良いことだと思いました。

柳委員：女の子の場合は、3年生と4年生は部屋が変わってしまうとか、学年が上がる毎に辞めていくお友達が多くなることもあります。子どもにお願いしてクラブへ行ってもらっていました。

クラブの部屋が学校の図書室なのに、目の前にある図書室の本を読んではいけない、学校のものだから。児童クラブの本を読まなければいけないなど、駄目なことが多いと、行きたくなくなるものだと思います。

長期休暇の時は、1年から6年生が1つに集められます。男の子の動きもありますし、通常とは違う環境になるので、子どもにはお願いして行ってもらっていました。お昼寝の時間に、「私ひとり、本を読んでいる」、「宿題をする時間も場所が取れないから1時間しかない」、そういう施設環境のクラブもあれば、プールに入れたり、外で遊べるクラブもあると聞いています。この環境の差は、なくしてほしいと思っています。

親としては、行きたくて行く放課後児童クラブであってほしい。上越にはたくさんの自然があります。公民館事業の先生達は、「なんで子ども達が集まらないんだろう」と思っているのであれば、児童クラブと連携していただければと思います。興味津々な目を、キラキラさせている子ども達がクラブに

はたくさんいます。

柳澤委員：担当者の方にお尋ねがあります。勉強の時間というのは、1時間と決まっているのですか。1時間で足りないと言って、帰ってくるときがありました。

学校教育課：自由な環境づくりを行うようにはしておりますが、児童クラブの運営においては、一応のスケジュールを作成し、指導員に任せています。学習時間については、概ね1時間というのが集中して勉強に取り組む適正時間とし、目安にしています。柔軟にやっていただきたいという保護者のみなさんのご意見はありますが、130名強の指導員について同じスキルを確保することの難しさ、そして、180名規模で運営しているクラブ単位もあれば、一方では2名、3名規模のクラブ単位であるという実態がありますのでご理解をいただければと思います。

高島会長：「よい児童クラブ」と「あまりよくない児童クラブ」があるようですが、どなたか教えてください。

岡田(龍) 委員：私が聞いた話ですが、線引きは難しいと思いますが、子ども目線か、保護者目線かということだと思います。子ども目線では、先生が楽しい、融通が利く、うるさくない、だと思います。保護者目線では、融通が利く、細かい、だと思います。あくまでも多少の融通を指しているとは思いますが、お迎えはこの時間に来てくださいなど、指示が細かい。お迎え者が変わると毎回連絡をする必要がある、などではないでしょうか。

柳澤委員：指導者のスキルについて、子ども同士の喧嘩をとっても、「喧嘩はやめなさい。うるさい。」で終わってしまうと、子どもはモヤモヤで帰ってきてしまう。そこは、指導者のスキルだと思います。入口で時計をもって立っている指導員がいて、お迎えが1分遅れたら、200円の延長料金が発生してしまうことなど、もう少し融通がきいてもよいと思うところがあります。

柳 委員：お迎えの時に子どもの様子を教えてくれる指導員だと、安心できます。先ほどの喧嘩の話も同じだと思いますが、理由、状況を教えてもらえると社会の中で勉強しているんだと親としては思うことができます。

高島会長：本日のようなグループワーク、このようなワークショップでは「先生がない」、「お客さんでいることができない」、「初めから決まった答えがない」、「頭が働いて身体が動く」、「交流と笑いがある」、という5つくらいのポイントがあると本などには書いてあるのですが、ここに「熱心さ」が加わり、今日は素晴らしいグループワークができたと思います。

このようなグループワークをこのような形で出来るというのは、成熟した大人の委員の皆さんだからこそ思っております。

9 問合せ先

健康福祉部こども課企画管理係 TEL：025-526-5111（内線 1833）

E-mail：kodomo@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。